

電力崩壊

—戦略なき国家のエネルギー敗戦—

国際環境経済研究所理事

竹内純子

- * 3・11で激変した原子力への評価
- * 電気代の高騰はなぜ続くのか
- * 再生エネルギーへの負担金について
- * 電力の安定供給について
- * 再生エネルギーの弱点
- * 日本は再生エネルギー後進国ではない
- * 歪んだメディアの報道姿勢
- * 原子力政策の不透明性をどうするか
- * 原子力のコスト競争を考える
- * 国家の役割と原子力発電



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は竹内純子さんにおいていただきました。1971年のお生まれで、慶應義塾大学を卒業後、東電に入社され、震災のありました2011年に退社されて、現在、国際環境経済研究所で主席研究員をされておられます。筑波大学、関西大学等でも客員教授をされておられます。

ご存じのように2011年以来、原発をめぐる問題がたいへん厳しい状況になって、今回岸田政権で久しぶりに原発政策が少し動いたという感じがいたします。ただ、政府内でも、自民党内でも、あるいはメディアでも、国民の間でも、原発の問題をどう考えるかについては議論が非常に少ない。一方的な議論だけがなされている状況でございます。エネルギー戦略全体が

日本にとって非常に重要なのに、一般の方を含まない議論がなされないという状況が続いているわけがございます。今日はこの問題につきましてたいへんご造詣の深い竹内さんにおいていただくことができましたので、日本のエネルギー戦略についてじっくりお話を伺いたいと思います。

それでは竹内先生よろしくお願いたします。（拍手）

3・11で激変した原子力への評価

竹内 皆様こんにちは。私はただいまご紹介いただきました国際環境経済研究所、あるいはいくつかの大学、研究機関等でエネルギー問題、エネルギー政策論——エネルギーのお話と地球